

宜言草案

茲に日本労働總同盟九州聯合會第五回大會上當り我等が力針を素直に宣言する。在異情勢下依然として暗雲低迷し「除危機は愈々深刻化して来た。伊予戰爭を中心とした政治的、經濟的、戰事、疫病、境境、斐に去未する状態を續々極東に巡回する軍備擴張競争と並んで「日のイラン政策が愈々因り漸次その影響は全世界を暴りて猛烈なる軍備擴張競争と並んで「日のイラン政策が愈々因り漸次その影響は最高潮に達し殊に我為替空手國の日本商品其廻りの通航面を突破し全世界の市場を元氣の輸出産業の景氣も亦その頂点を極めてゐる。

資本家階級資本家階級は「巨利」の本體の如きは、本業場況等の如き暴利に附隨して販賣、勞動階級に対するは衣業上次の感想を長時間の労働強化と強制し、高齢工人人命を害する悪制を以て勞動階級を愚使へたる所である。資本家階級は全世界的大同團結として於ける金力を主張する事は、政治権力の説教員と労働者保護の社會主義に対する理由が如何を闇にしたるか、此種の感想は、本業場況等の如き暴利に附隨して販賣、勞動階級の暴戾なる振舞が貪欲の靈氣に依る。〔民衆思想を益々悪化させ、労働階級の如きを暴露し、〕日本産業基盤を眞に憂ふべく不安動搖に陥れるものにして、「日本産業の維持業展平和の能力を否認を擇す。我等の断じて黙然能わるとして、獨り労働階級の利己的立場からうなづくが、資本家階級の權威を厚くは

口「本産業が平和業展のため猛然立て斷固たる舊機の鉄轍を加えねばならぬ。

然るに近來「家主主義の波に煽れ、資本家階級の利益のため是用する非常時為家傳に既忍之の反動的資本の攻勢を压倒して、労働組合運動に何等の信念を確信もせず、徒輩が殊更に日本主義を看板にして、労資一体を唱えてゐるが、日本人たる限り生真面目にて日本主義であらば、豈ぞ今更云々如く云々大発見り如くに称して、詰居は資本家階級の從業勞働的資本家費が明るまに「労資協調」と全く同一の「労資一体」をぞと称するが如きは、勝勢流川の間くへ漂る流行の運動にしてがまき現実無視の描象的詞句唱えりと自体が浮薄輕佻、不懂眞極り断じて居まい。かくか如く只だ單に時勢流行に乘り現思は無視して描象的詞句と労働階級を取扱ひ、而も制すことは絶対不可能にて「労資一体」をぞと称する描象的言辭を以て健美なる労働組合の戰隊を撃沈せしとするが如き運動は、一朝有事に際し労働階級の興進む可き途を誤らしめ、「家産業を不安動搖に陥れるものにして、只だに労働階級を毒氣階級的裏切りとて許し得ざるに非らず、かゝる浮薄不謹慎なる徒輩は「家産業の健全なる業展平和主義する亂賊として、我等は断乎、永が撲滅を期するものである。

口「際若機を避用する資本の攻勢に白旗を揚げ労資一体の日本主義をと極めて日本労働組合會議の中より脱落じたもの一二あつたが、健美なる労働組合の陣営は微動なく、今故に期せず日本労働組合議會、全労働組合同盟の全的合同が將に実現されると、健美なる労働組合主義は愈々強化されてゐる。我が九州聯合會議以來茲に満七年、九州歎綠迄より、より健美なる労働組合主義の大加を守り、善戰精勤、極力強右の懲責任なる思想運動を全く感压して労働階級解放の大途を堂々前進して來る。近年、労働組合主義議席、主義の闘争團体の如く誤解と或は又、左翼共産主義克服のため健美なる労働組合の如くに戰つた過去の对立闘争の萃々とも想起して、只云「争ひ」の中心に労働組合を觀てゐる者今日の健美なる平和的建設的諸運動主導して、極めて皮相的を觀察を以て「労働組合不振の誹りを差しであるが、九州聯合會議はかる愚劣である吾計を抱る云々、最もまで労働組合の社會的事業を保存を遂行する實力主義養成、内部組織の充実、整備を努力し、やがて来るべきイノフレ景氣、破産に襲ひ来る深刻なる不況の大嵐備えて「家産業の健全なる業展と労働階級の生存を擁護する準備と用意に全力を注ぎ、以て認同願つ既定さ大方針は別し、一粒蟲生するものである。

昭和十年十月三日

日本労働組合議會第八回大會